

《企画研修会①報告》

内田先生の自作紙芝居で

「岩槻の歴史を学ぼう」

令和五年度第一回企画研修会が七月三十日(日)十三時三十分からコミュニティセンターいわつきにおいて開催された。内田先生は、本会元会長であり、岩槻にまつわる昔話を紙芝居にされ、小中学校の子どもたちに演じてこられた。また、内田先生自らが紙芝



岩槻の歴史についてお話をされる

内田 茂 先生

居を演ずる「すけまさの会」が定例で開かれているそうです。自作された紙芝居は、十六作に及ぶ。その中で今回は「岩槻城物語」「智勇の将 太田資正」「金剛院縁起」の三作を演じてくださった。内田先生を応援する「岩槻むかしばなし紙芝居の会」の皆様が八名いらっしゃった。参加者は会員十五名に加え、他班からも四名、現職校長二名、地域の方三名、合計二十四名となった。

岩槻城主太田資正(資正が生きていた時代は岩付)は太田道灌の曾孫で武芸に優れた武将であり、岩槻城帰環を願ったが、願いが叶うことなく生涯を終えたとある。ふるさと岩槻への望郷の念に心を打たれた。岩槻には古い歴史があり、城下町として栄え、岩槻城址マップも残っている。太田資正は、令和三年で生誕五百年を迎え、記念誌も発行されている。興味深いお話に皆さん引き込まれた。また、内田先生の深く広い造詣、ご見識に圧倒された。九十年代という年齢を全く感じさせないパワフルなご活躍に敬服した。

「岩槻むかしばなし紙芝居の会」の皆様は、その紙芝居を使って岩槻祭りや鷹狩り行列な

どのお祭り等の機会に紙芝居を行っている。

紙芝居を演じるにあたって、日々研究と研修を行っていて、その熱意が伝わってきた。

当日は猛暑で室外は沸騰した一日だったが、クーラーのきいた部屋で大変有意義な研修を実施することができた。

「岩槻に、過ぎたるものが二つある。」

児玉南柯と時の鐘

という言葉が残っているが、ぜひ内田先生と紙芝居を入れたいと痛感した。

(担当幹事 林 春枝)



紙芝居を演じる

「岩槻むかしばなし紙芝居の会」の皆様